

2017.11 Vol.463

関西大学通信

Kandai Style



第40回

関西大学 統一学園祭

統一学園祭

11月2日(木)から5日(日)までの4日間、第40回関西大学統一学園祭が開催されます。
今号では実行委員長のインタビューとともに、入学前に学園祭に来たことがある関大生2人にも話を聞きました。
入学前の学園祭の印象や学園祭にかける熱い思いを紹介し、
関大生の学園祭への情熱を感じてください。

第40回の節目を迎える統一学園祭のテーマは「All One ~進め、共に、頂へ」です。「例年とは違う学園祭にしたい」という思いから、今年はおのおのが学園祭で最高到達点(目標)を設定し、それに向かって仲間と団結して取り組み、達成していこうという意味が込められています。そのため出展する約120の団体に、テーマに沿った企画立案をしてもらうようにこれまで以上に力を入れました。昨年12月から準備を進めてきた中で、なかなか周りから理解が得られず大変でしたが、参加する全団体が同じ方向を目指すことで統一感のある学園祭になるのではと思い、これまでやってきました。関大の学園祭において、ただ楽しいと感じるのではなく、目標を持って取り組むから楽しいということを感じてもらうための、これまでにない新たな挑戦です。

関大の学園祭は来場者数、イベント、模擬店出展数などあらゆる点を見ても西日本最大の学園祭だと思っています。実行委員たちの熱意は日本中どこにも負けません!多くの方に学園祭に足を運んでいただき、関大の規模だからこそ味わえる熱気と感動を感じてもらいたいです。今年のテーマに沿ってみんなで作り上げ、進化した学園祭にぜひ注目してください!

統一学園祭実行委員会 委員長
経済学部 3年次生
三堀 峻平さん



たくさんの企画がありますので、ぜひ学内を一周してみてください。

は模擬店エリア

高校3年生の時に関大の学園祭に来たことがきっかけで、学園祭の実行委員になりたいと思いました。お笑い王決定戦を見ましたが、その時の実行委員の司会やステージをスムーズに進行する姿、来場者への丁寧なあいさつなどを見て、自分もこういう大学生になりたいと思いました。高校生の自分とは違って大人のように感じ、憧れたのを覚えています。学園祭ではリアルな学生の姿を見ることができ、学部について話も聞けたので、入学後の大学生活をイメージすることができました。



文学部祭典実行委員会 委員長
文学部 2年次生
木元 佐恭さん

今年の見どころは、あすかの庭で行われる法学部、文学部、政策創造学部、外国語学部、人間健康学部、総合情報学部、社会安全学部の劇です。学園祭の期間中はずっと上演しているので、いつお越しになっても存分に楽しんでいただけます。あすかの庭付近は、人も多くないのでゆっくり楽しめる穴場ですよ。

企画を楽しみたいという方には、第1学舎4階で行われる、1フロアを貸し切った「美女と野獣」をモチーフにしたスタンプラリーがイチオシです。1フロアを貸し切った企画は、見ごたえ充分で毎年大人気!他にもたくさんの企画を用意しています。企画を楽しんでいただくならぜひ学内の奥の校舎までお越しください。



高校3年の時に関大の雰囲気を見たいと思い学園祭に来ました。私の高校は生徒数が少なく、小規模だったので、関大に着いた時の人の多さと大学の広さにびっくりしました。普通は学園祭の思い出といったら、どこかのステージや模擬店などの話になるかと思いますが、私の場合は人の多さと大学の広さに、ただただ圧倒されたという印象です。

学園祭を企画・運営してきて、多くの人に関わっていて、ステージの企画一つにしてもたくさんの説明会やいろいろな制約があり、学園祭を行うことへのたいへんさを実感しています。マニュアル通りに進まないこともあり、企画管理局で一から規程を作ることもありました。どこに確認したら良いかも分からない状態で、負担が増える時もありましたが、より良い学園祭にするため、企画者が考えてくれたことを実現できるように一生懸命取り組んできました。実現した企画数は120を超え、これも関大ならではの多さです。来場者の方が夢中になるイベントがきっと見つかります!ステージ企画も必見ですが、ぜひパンフレットを見て、学内を一周してみてください。来て良かったなと思ってもらえる企画をたくさん用意しています!

常任委員会 企画管理局長
政策創造学部 3年次生
塩田 千尋さん



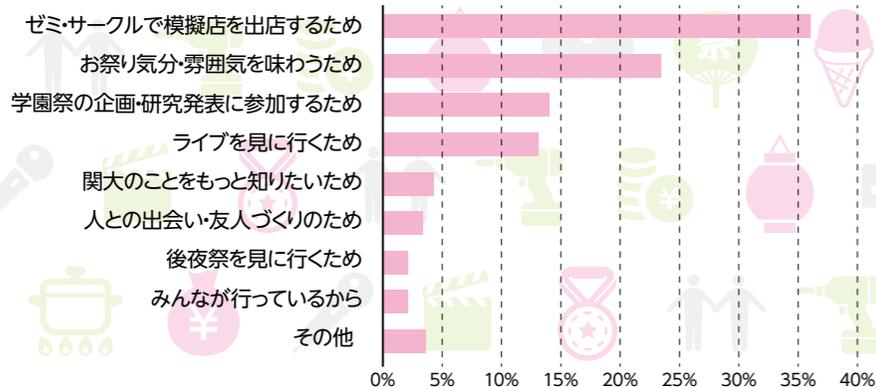
学園祭白書

～関大生の意識を大調査～

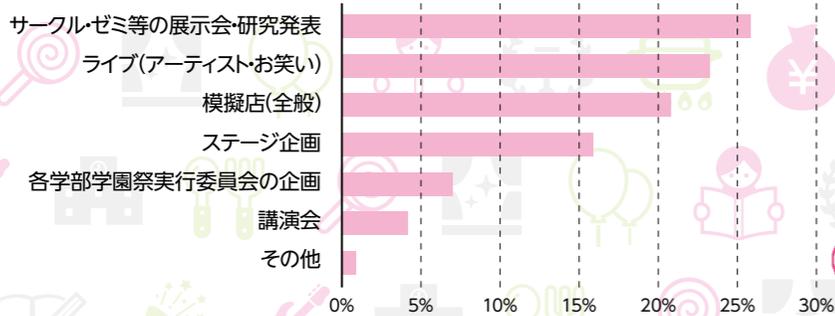
今年の統一学園祭に参加するかどうかや、楽しみにしているイベント、さらに「こんな企画があったらもっと学園祭が盛り上がると思う!」などの、学園祭に対する関大生の声を紹介します。

【アンケート期間】7月10日～8月21日
【対象】関大生 【回答者】384人

Q2 「統一学園祭」へ行く目的は何ですか?



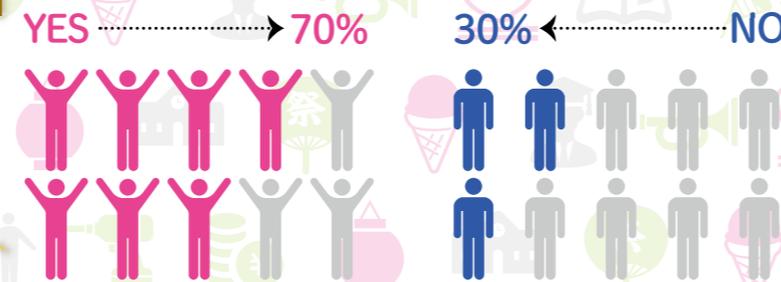
Q3 「統一学園祭」で楽しみにしている企画・イベントは何ですか?



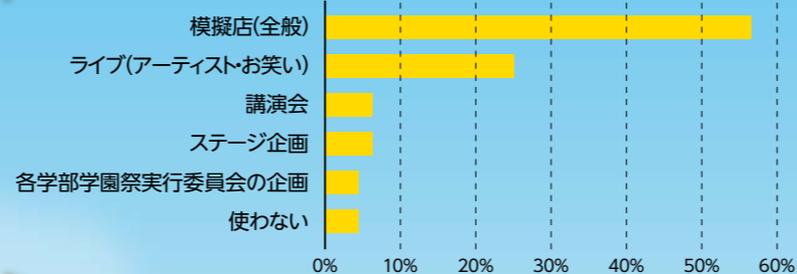
この他に、ボランティアやエコレイの活動に参加するのが楽しんだという声もありました!

みんなで一緒に考えよう。
関大誌上教室

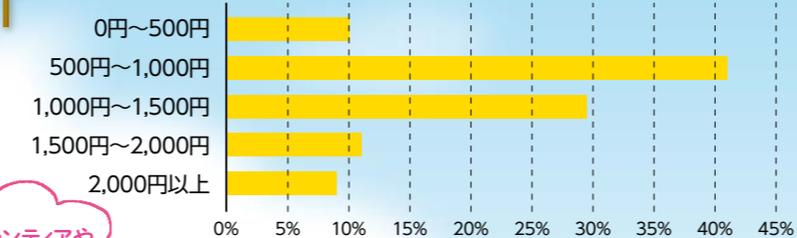
Q1 今年の「関西大学統一学園祭」に行きますか?



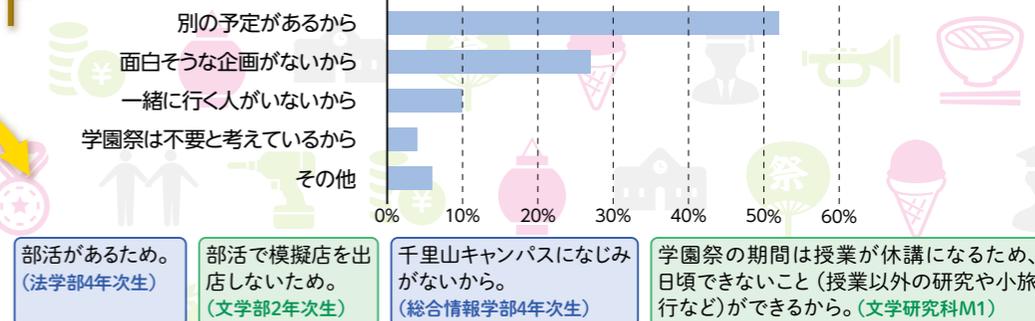
Q4 「統一学園祭」では、どのような企画・イベントでお金を使いますか?



Q5 1日の「統一学園祭」で、いくらお金を使いますか?



Q6 「統一学園祭」に行かない理由は何ですか?



Q7 「統一学園祭」の開催期間はどのように過ごしますか?



Q8 「統一学園祭」でどのような企画・イベントがあれば、いま以上に盛り上がると思いますか?

教授陣と学生との対抗イベント。(法学部3年次生)
初対面の人と交流できるもの。他大学生や一般の方も来学するので、たくさんの人たちと触れ合えるイベント・企画があると面白いと思う。(経済学部4年次生)
スタンプラリーなどで、企画や模擬店をまんべんなく回れる工夫をし、キャンパス内をくまなく歩けるようにすれば、外部から来たお客さんやお子さんが楽しめるのではないか。(社会学部2年次生)
模擬店やゼミの企画等の出化物で、良かったものを投票で競い、優勝したチームには景品を渡す。(政策創造学部2年次生)

世界記録挑戦企画があれば、全員が楽しめると同時に大学知名度や学生好感度も上がるのでは。(総合情報学部1年次生)
日本のおいしい食物だけでなく、他の国の食物もあれば、幸せだと思う。(総合情報学部2年次生)
関大生全員で楽しめる企画で、できるだけたくさんの人と一つになって楽しみたい。統一学園祭は、西日本一の学園祭なので、みんなで一つのことをし、または1カ所集まって、関大生で良かったと学園祭を通して再認識したい。(総合情報学部2年次生)
学部ごとの特徴が分かる学部別対抗のステージ。(総合情報学部3年次生)
バザー。(総合情報学部4年次生)

キャンパス対抗自慢大会「うちのキャンパスはこんなすごいあるんやで」のようなテーマで、しゃべりのうまい学生を代表選出してステージをやってほしい。キャンパスあるあるもあめで。(社会安全学部2年次生)
地域の人たちも参加して楽しめるような、ビンゴ大会や子ども向けの実験などをすると楽しいかもしれない。(環境都市工学部4年次生)
カラオケ対決を行うと盛り上がると思う。(理工学研究科M1)
たまたま所用のため、参加できないものの、現行のイベントで十分参加したいと思う。創意工夫がされていて申し分ないと思う。(心理学研究科M2)

この他に、Instagram 映えるオブジェ・商品の製作や、Youtube 等での学園祭のライブ中継、夜のキャンパスをプロジェクト・マッピングで彩るといったアイデアもありました!

PROFESSOR'S COMMENTS

学生センター所長
政策創造学部 岡本哲和教授

今回のアンケート調査の結果は、過去に実施したアンケート結果と比べて、大きく変わったところがあるとは言えません。「学園祭に行く目的」では「お祭り気分を楽しむため」や「ライブを見に行くため」などの理由が、そして「学園祭で楽しみにしている企画・イベント」では「ライブ」や「模擬店」といった理由が、

相変わらず上位を占めています。

一方、ここ数年の間で変化している部分も見出せます。それは「学園祭に行く目的」についての質問で、「ゼミ・サークルで模擬店を出店するため」や「企画・研究発表に参加するため」といった能動的な関わりを示す回答の割合が高くなってきていることです。

学園祭に行かずに「自主勉強・習い事」に励む学生も一定程度いますが、それはそれで良いでしょう。でも、何らかの形で少しでも学園祭に携わってみれば、学園祭に対する見方も変わってくるかもしれません。

次回のテーマは…「寄付・募金について」

寄付や募金の仕方が多様化している現在において、寄付や募金をするか、またはしないかやその理由、する場合は方法や目的などをアンケート調査しました。

11月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「学園祭白書～関大生の意識を大調査～」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(11月1日に通知予定)。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



エンターテインメント業界／プロボクサー

B.M.B BOXING GYM

寺地 拳四朗さん

奈良県立奈良朱雀高等学校出身

2014年人間健康学部卒業

「試合が始まったら勝つだけ」の精神で突き進む。
応援してくれる人たちの声援が勝ち続けるための原動力です。

寺地拳四朗さんは、今年5月にWBC世界ライトフライ級の世界王座を獲得したプロボクサーです。

ボクシングを始めたのは中学3年生の夏。高校入学後はボクシング部に入り、厳しい練習を重ねて強い体を作りました。その甲斐あってインターハイで準優勝を収めます。

高校卒業後、人間健康学部の1期生として入学し、体育会ボクシング部に入部します。学部のある堺キャンパスで早朝練習をした後、授業を受けてから千里山キャンパスで練習。練習終了後に京都府内の自宅に帰る生活は大変だったと言います。年間約15試合あるため、ほとんどが減量の日々だったとか。56Kgの体重を49Kg以下に絞らなければならず、「当時は自己流の減量法で、野菜やパンなどの軽量な物しか食べず、トレーニングで汗を流した後もほとんど水を飲みませんでした」と当時を振り返ります。くじけそうになった時、監督やコーチがミット打ちの相手をして励ましてくれたことには、今も感謝しているそうです。3年次にボクシング部のキャプテンとなり、黙々と練習をして試合に勝つ姿を見せることで、20人近い部員を引っ張ることができたと話します。苦しい減量に耐えながらも実績を上げてきたことが自信につながり、4年次に第68回国民体育大会の成年男子ライトフライ級で優勝して、有終の美を飾りました。

卒業間際の2014年3月にプロテストに合格し、リングネーム「拳 四朗」でデビュー。同年8月のデビュー戦で判定勝ちした後、2015年10月にWBC世界ライトフライ級ユース王座、12月に日本ライトフライ級王座を獲得。2016年8月にOPBF東洋太平洋ライトフライ級王座も獲得し、親子2代での日本王座とOPBF王座の2冠達成は、国内初の快挙です。

幼少の頃から色々なスポーツに挑戦したり、競艇選手の資格検定試験を受けたりするなど、最初からボクサーだけをを目指していたわけではありませんでした。それでも最終的にプロボクシングの道を選んだ理由は「試合に勝つ快感が忘れられないことと、勝った時のみんなの楽しそうな笑顔を見るのがうれしいから」と語る寺地さん。「試合が始まったら勝つだけ」という寺地さんの頑張る原動力は、応援してくれる人の声援だと言います。精神面を前向きに保つ秘訣は、とことんプラス思考で、常に「運がいい」と言葉にできるようにしているからなのだとか。

最後に「勉強もクラブも真面目に取り組んできました。何事も諦めず、自分を信じて夢に向かっていけば、きっとかなうはず」と笑顔でエールを送ってくれました。

ある1日のスケジュール

- 9:00 トレーニング開始
ランニング
- 10:00 休憩
- 12:00 体幹トレーニング
- 14:00 昼食
- 15:00 休憩
- 19:00 ミット打ちや
スパーリングなどの
ボクシング練習
- 21:00 夕食



必須アイテムは、スパーリング用の専用ヘッドギア、グローブ

Professional
Boxer

VIVA!!

学び易



社会学部 社会学科

「専門演習1」

保田時男 教授

調査の方法論を考えると、社会の概要が見えてきます。

「思い出」の調査・分析を通して、現代社会の構造と変化を捉える力を養います。

「社会調査の方法論」について研究する保田時男教授のゼミでは、「自伝的記憶」いわゆる思い出や自己形成に関わるような記憶の調査・分析を通して現代社会の構造やその変化を捉えることに挑戦しています。その手段として、アンケートを利用した調査方法を追究しています。

調査では、まず被験者に記憶を振り返ってもらい、人間が思い出をどのように形成し、表明するかのデータを収集します。アンケート票の色を変えたり、消せるボールペンを使ったりするなど、わずかな違いで答えやすさが変わるため、記憶を引き出しやすい工夫をしています。「思い出に関する研究を深めていくと、調査の効果が上がり、正確に継続調査（同一の質問内容について定期的実施する調査）ができ、飛躍的に社会調査がしやすくなる」と保田教授は言います。

方法論を学び身に付けることが目的でもあるので、グループ分けやテーマの選択、アンケート調査の実施・集計の方法から発表まで、学生の自主性を重視しています。自主性を尊重するため、グループの人数がばらつくといった問題点もありますが、学生自身が興味・関心があるテーマに分かれることで、活発なグループ活動を促しています。内容を進めるにあたって、学生との認識の違いなどが出てくることもあるので、一人一人の個性を見ながら、アドバイスと指摘のバランスを保つよう、工夫しているそうです。

ゼミの狙いは、アンケート作成や調査の実施、集計から発表までを、一通り経験することです。一連の流れをつかんでいると、卒業論文の研究でより専門的な実地調査をする際に、どうすればよいか感覚的に分かるようになると言います。

社会的思考とは、個人の力に関係なく、人が集まったときにいつも違う力が作用するという考え方です。「知りたいことは、一人一人の回答ではなく、それを集計したときにどのような社会の様子が見えるかです。社会調査では、個人の回答に差異があっても、平均的には社会の実情に合った集計が出てきます。このような考え方が社会にはあることを知ってほしい。また、うまくいってもいなくても、他に良い方法はなかったか、最善の方法だったのかと、結果だけでなくその過程を注意する姿勢を持てれば、おのずと学ぶ力が付いてきます」と保田教授は語ります。社会的な思考方法の枠組みを身に付けることこそがこのゼミの目的です。



西岡友紀さん(3年次生)

もともと統計が好きで、1年次から社会調査士の資格を取ろうと思い、保田先生の授業を受けました。ゼミではテーマよりも、どのように統計して分析するかという過程に重点を置いているため、考察力が身に付きました。「思ったことは何でも発表する」という方針の下、積極的に発言するようになったと思います。



衛藤和樹さん(3年次生)

計量社会学の授業が面白かったので、このゼミを選びました。得たデータを数量で表し、社会の概要が目で見分けることに興味が湧いています。またゼミ長になり、主体的に動くことの大切さも学んでいます。将来は、調査結果を生かして、良い思い出作りのお手伝いができるエンターテインメント業に就きたいです。



社会学部

保田時男 教授

友人からよく「細かいことを気にしすぎ」と言われている人は、方法論を学ぶ素質があります。調査票の行を1ミリずらすことで印象が変わるといったことがよくあるからです。結果だけでなく方法やその過程を大切に、学生の自主性を重視したゼミです。本ゼミの調査・研究を通して社会の構造を捉えましょう。



オープンキャンパスの草分けは関西大学 ラジオの受験講座がきっかけ

全国の大学が力を入れるのが、オープンキャンパスです。とりわけ参加者が多いのは「サマーキャンパス」。高校生が大学のキャンパスを訪ね歩き、さまざまなイベントでナマの情報が得られます。大学にとっても受験生を増やすチャンス。参加者は年々増える一方です。その「サマーキャンパス」を西日本で本格的に始めたのが関西大学であることを知る人はあまりいません。そのきっかけがラジオだったことも。



千里山キャンパスで行われた第1回のオープンキャンパスで講演する林さん



現在のオープンキャンパス

リスナー数十万人のカリスマ教師

戦後、ラジオが最初に高校生の人気を呼んだのは、1950年代から始めた「大学受験講座」です。本格的な予備校もない時代。各地の受験生は苦手の科目のテキストを買って、英語・数学・国語などの各科目がそろった、1回30分ほどのラジオ講座にかじりつきました。

一方、関係者によると、各私大の「受験生向けサービス」が本格化したのは1980年代です。関大でも受験生のための「相談会」などを小規模に開いていましたが、「高校生を呼ぶのにアイデアはないか」と、当時の入試課職員だった大寫征次氏（元理事）や岡田弘行氏（元常任理事）らが注目したのが「ラジオ受験講座のカリスマ教師」の一人、関大文学部助教授（当時）・林省之介氏でした。

「入試は、気合だ!」「いつするの? 今やろ」

源氏物語などの世界を、独特の口調でリアルに説明する林さんのラジオ講座は、その人気で数十万人の受講生を抱えていました。後に文学部教授から衆議院議員に転身した林さんは、若い時から極めて個性的でした。おまけにサービス精神旺盛で、講座で使う表現も派手でした。

その1 「入試は1に気力、2に体力、3・4がなくて5が学力、入試は気合だァー」と全国の受験生に叫ぶのです。女子レスリング選手の父親と同様の「気合だァー」がうける40年ほど前です。

その2 大学進学と同時に勉強しなくなる当時の若者を嘆き、「君ら、いつ勉強するのや。今やろ」。予備校の有名講師のセリフをほうふつとさせる一言。語りかけた大阪弁が微妙に効きました。

大教室の通路も満員。巨大な氷柱も

1986年（昭和61年）7月19日の土曜日。最初のオープンキャンパスです。猛暑の中、林さんが講演した700人収容の大教室は、通路も高校生でぎっしり。壁際も立ち見でいっぱいでした。クーラーはなく巨大な氷柱が熱気をわずかに冷やしました。参加者は1,800人ほど。この成功で関大の本格的なオープンキャンパスは他大学に先駆けて定着しました。その後数年、林さんも大教室で高校生たちを盛り上げましたが、ラジオの受験講座は通信添削事業などの進出により、下火になりました。

3万5千人を超えました

そして今。関大のオープンキャンパスの参加者は年間3万5千人を超えます。イベントの中身も様変わり。今年の春と夏に開催したオープンキャンパスには、芝井敬司学長も参加しました。熱い想いを語るとともに、少しでも関大に親しみを感じてもらおうと高校生たちとの「ツーショット」におさまり、写真をお土産として希望者に提供したのです。受験のお守りなどとしてSNSで伝わたらしく、8月のサマーキャンパスでは、このツーショットに500人近くが長い列を作りました。オープンキャンパスも時代を映します。



芝井敬司学長と記念撮影を行う高校生

学部・研究科トピックス

法学部／法学研究科

政治学系ゼミ研究報告会の開催

2012年以来、今年で6回目となるこの報告会は、政治学系ゼミの学生が日頃の研究成果を公の場で発表する、年に一度の機会です。今回は11月29日(水)の3～5限に、第1学舎千里ホールA教室で開催します。恒例のゼミ報告に加えて、今年は初の試みとして、1・2年次生からも政治学のテーマで研究・報告してもらおう、「チャレンジ研究発表」を企画しました。ゼミに入っていないけれど政治学に興味がある人、関大生がどんなことをするのか気になる人は、当日会場をのぞいてみてください。聴講は自由です。(教学主任 津田由美子教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

EU-日本学の特別講演会を開催

文学研究科の副専攻「EU-日本学」では、7月11日、カレル大学東アジア研究所副所長・日本研究学科長のヤン・シーコラ先生を講師にお招きし、「チェコにおける日本研究の“今昔”」と題する特別講演会を開催しました。先生からは、チェコの歴史・文化や日本研究の歩みについて、興味深いお話をうかがうことができました。また、講演会には多くの参加者があり、終了後も質問者の列が絶えず、先生の気さくなお人柄や、カレル大学との交流の深さを改めて実感する機会となりました。(教学主任 小倉宗准教授)

経済学部／経済学研究科

夏休みに上海プログラムを開催

第6回上海復旦大学プログラムを実施しました。復旦大学での学生交流、上海コンテナ港、上海自動車、上海ハウス食品、大和ハウス常州プロジェクトの見学、上海ジェトロ、復旦大学、上海国際問題研究院の各専門家のレクチャーを通じて16人の参加学生は現代中国に対する理解を貪欲に深めることができました。(佐々木信彰教授)



上海開大会の先輩たちと学生たちの集合写真

政策創造学部／ガバナンス研究科

専門演習の募集・選考

政策創造学部では、毎年10月から12月にかけて専門演習の募集・選考を行います。本学部では、ゼミ形式の授業を初年次より開講しています。3年次生から受講する専門演習では、担当教員の専門により近い見地から、2年間かけて専門知識を修得し、併せて学生自身も自らのテーマを設定し、卒業論文執筆に向けて研究を進めることとなります。課外調査やゼミ合宿などの機会を通じて、多くのゼミ仲間と親睦を深めることもできるでしょう。積極的に参加し、学生生活をより豊かなものとしてください。(教学主任 松元雅和准教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

Self Study

How can students improve their language skills in the shortest period possible? The best way is to do additional self-study outside of the classroom. My advice is to find materials that you enjoy and that aren't too difficult, such as easy books, student newspapers, movies or TV shows, or a writing journal. Make a plan to study 2-5 times a week for 20 minutes or more each time. If you do this, then in 2 years your English skills will become much better. 短期間で語学力向上はどのようにすれば可能でしょうか。最良の方法は授業以外の自主学習です。お勧めは難しすぎず楽しめる教材、例えば易しい本、学生向け新聞、映画、TV番組あるいは日記をつけることです。20分、またはそれ以上の勉強時間を週に2～5日確保すると、2年後には英語力がぐっと向上しているでしょう。(アラン・ハント教授)

人間健康学部／人間健康研究科

「ユーモア学プログラム」開講中

日本で(おそらく)唯一、大学で笑いを学ぶ「ユーモア学プログラム」は今学期も多彩な授業を展開しています。今年は授業内容を世に広めるため堺市と連携で、「笑い学入門講座」を春学期から公開しています。毎回150人程度の参加者が、「笑いを科学する」(新曜社)を参考書として熱心に受講しています。秋学期は9月から1月まで7回開講します。堺市民優先ですが、関大在生にも受講可能です。受講料不要。参加申し込みが必要です。ウェブサイト参照、または堺オフィスへお問い合わせください。(浦和男准教授)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

台湾中原大学との相互交流

8月に、システム理工学部電気電子情報工学科のグローバル人材育成プログラムの一環として、学生20人が中原大学を訪問し、研究交流を中心とした海外体験研修を行いました。今回、9月4日～10日に、中原大学より、教員8人、学部生15人、院生23人が本学を来訪し、学術シンポジウムを開催しました。講演会と双方の学生の研究発表(ポスター)、研究室ツアーなどとともに、工場見学、文化交流イベントも開催され、深い交流がなされました。



安全・環境保全への取り組み

秋学期が始まって1カ月がすぎ、統一学園祭の時期になりました。模擬店などではガスの使用、排水の処理などいろいろな規制がなされていますが、理工系の実験・実習設備においては、近年、厳しくなった規制の対応に苦労していま

す。実験排水では、使用した薬品の回収、器具の洗浄方法の厳守はもちろんのことですが、水質検査では、歯磨き粉に含まれるフッ素、マニキュアの除光剤、インスタント麺の油成分など日常に用いられる物の成分も、異常値として警報となります。他学部の皆さんも第4学舎の流しを利用するときはご注意ください。また、薬品、高圧ガスボンベでは、これまでの各研究室での安全管理に加えて、学舎・建物単位での総量規制の順守が求められ、保有量の削減に向けて取り組みを進めています。(システム理工学部入試主任 山本靖教授)

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

新しくなったBLSP

BLSP(ビジネスリーダー特別プログラム)では、去年、海外ワークショップ先をシアトルからシンガポールに変更しました。シンガポールは、中華系・マレー系・インド系の人々が共生する、ダイナミックな国際都市です。今年は、64人の学生が、春学期に調査・研究した内容を、提携先の企業や大学で発表しました。さらに、パソコンや食品メーカーを訪問し、国際ビジネスの実際にも触れました。これらの経験を通して、学生達は英語力だけでなく、人間的にも大きく成長しました。(副学部長 中邑光男教授)

社会学部／社会学研究科

体系的な深い学びへの誘い

今年度も、新たにさまざまなプログラムの修了生が誕生する予定です。各専攻でより体系的な深い学びを目指したプログラムでは、専門的な科目群の修得や、各専門テーマによる卒業研究レポートの提出が必要となる場合があります。4年次生は、卒業研究レポートが佳境を迎えていると思います。大学で学びたいことを模索しながら、授業を通し専門的な知識・技術を身に付け、その集大成となる卒業研究。深い専門性を獲得した証しとして、プログラムを修了し、有終の美を飾られればと思います。(入試主任 守谷順准教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

就職活動メイク講座開催

12月13日(水)に学部主催行事の「就職活動メイク実践講座」を実施する予定です。対象は、総合情報学部3年次生以上の女子学生です。講座の前半は、企業講師によるマナーや身だしなみに関する講義が行われます。後半にはメイク実習があります。参加者は、配布されたメイクサンプルで、プロのメイクアップアーティストからアドバイスを受けながら、就職活動向けのメイクを学びます。詳細はインフォメーションシステムで連絡します。定員50人の事前申込制です。(学生主任 谷本奈穂教授)

社会安全学部／社会安全研究科

専門演習発表会を開催します

11月22日(水)に各ゼミ3年次生の代表者による専門演習発表会を行います。例年、教員からの厳しい質問に戦々恐々として立つ立派に答える学生たちの姿を見ていると成長を実感します。この経験を糧に卒業研究の完成に向けて、一層勉学に取り組んでほしいと思います。みんながんばれ!(元吉忠寛准教授)



専門職大学院トピックス

法科大学院

司法試験合格発表から次なるステップへ

9月12日に2017年司法試験の合格発表があり、本法科大学院修了生から12人が合格しました。合格率は11.5%であり、昨年と同等の結果でした。本法科大学院は、合格者の就職活動をバックアップするため、就職支援委員会主催のキャリアガイダンスを開催するとともに、関大法曹会協力のもと、司法修習に先立つ事前研修を会員法律事務所で開催します。また合格者の中から選抜したティーチングアシスタントが、在学生・修了生の学習支援にあたっています。残念ながら合格に達しなかった修了生についても、来年合格に向けて特別演習等の正課外講座で勉学に励んでいます。本法科大学院としても、さらなる合格率向上を果すため、カリキュラム改正も含め教育改革に取り組んでいます。(入試主任 大和正史教授)

併設校トピックス

関西大学第一高等学校

「第8回全国和菓子甲子園」特別賞受賞!

「食べて美味しい健康和菓子」をテーマに8月22日に開催された第8回全国和菓子甲子園の最終審査で、料理部3年生の板倉愛さんと阪本真衣香さんが創作した「瑠璃林檎ノ美」が特別賞の一つである大阪府生菓子青年クラブ賞を受賞しました。食物繊維が豊富で免疫効果のあるリンゴとクルミを入れた餡を、体を温める効果のある生姜を練り込んだ生地で包んで焼き上げ、形はリンゴをかわいらしく再現しました。この受賞を励みに、これからも楽しく想像力豊かに活動していきます。(料理部顧問 小西宏子)



Attention 大学からの重要なお知らせ

エクステンション・リードセンター開講講座一覧

今からでも申込可能な講座について下記のとおりお知らせします。講座を受講して効率よく学習しましょう!

講座・コース・クラス			推奨年次	ガイダンス★1	開講期間★2	受付開始日
会計職	公認会計士	入門(フル)・入門(財務会計論)	1年次生	11月14日(火)12:20~12:50	11月27日~2018年3月30日	申込受付中
	簿記検定	2級対策Bクラス	1・2年次生	12月12日(火)12:20~12:45 12月15日(金)12:20~12:45	2018年2月23日~6月9日	11月29日
就職試験対策	SPI試験対策	基礎	3年次生 M1生	/	11月27日~12月21日	申込受付中
		直前対策			11月28日~12月22日 11月20日~12月18日 11月21日~12月15日	
					2018年2月14日~2月27日	11月29日

★1 講座の受講を考えている方や、資格について知りたい方のために、講座ガイダンスを実施しています。ガイダンスは、参加費無料、予約不要、途中参加・途中退室可能です。
★2 講座によって、講義日数、曜日、授業時間、定員数等が異なります。詳しくは「講座案内2017」でご確認ください。また、受講相談はエクステンション・リードセンターまでお問い合わせください。

エクステンション・リードセンターホームページはこちら



関大トピックス

体育会野球部が秋季リーグ戦優勝 山本隆広さん、阪本大樹さんが大記録達成

2017年度関西学生野球連盟秋季リーグ戦において、体育会野球部が2季ぶり36回目の優勝を果たしました。

中でも、10月1日に大阪市南港中央野球場で行われた対近畿大学では、山本隆広さん(人3)が先発登板し、9回110球を投げ10奪三振の力投で、見事完全試合を達成しました。関西学生リーグにおける完全試合は、13年ぶり史上2人目の快挙です。完全試合を意識したのは7回。最後の打者を三振に切って取る偉業を果たすも、実感が湧いていないと話しました。

また、10月11日にほっともっとフィールド神戸で行われた対立命館大学では、阪本大樹さん(経4)が無四球完封し、この試合で53イニング連続無失点を達成し、リーグ記録を新たに塗り替えました。この記録は、1982年の新リーグ発足後に、関西学院大学・宮西尚生さん(現日本ハム)が2004年秋～2005年春にかけて記録した48回1/3を更新するものです。

悲願の大学日本一に向けて、二人の活躍がチームを勝利に導いてくれることに期待が寄せられます。



山本隆広さん



阪本大樹さん

写真提供：関大スポーツ編集局

体育会サッカー部の竹下玲王さんが Jリーグ・AC長野パルセイロに入団決定

体育会サッカー部の竹下玲王さん(社4)が2018シーズンからJリーグ・AC長野パルセイロの選手として加入することが決定しました。

サッカー部の主将も務める竹下さんは、試合時間の90分間パフォーマンスを落とすことなくプレーができ、特にスピードを生かしたドリブルや抜け出しを得意とします。またフィジカルコンタクトにも優れており、身体能力を生かしたプレーから得点を演出できる選手です。

竹下さんは「このたびAC長野パルセイロに入団することになり大変うれしく思います。今の自分があるのも、どんな時でも応援してくれた家族や共に戦ったチームメイト、指導して下さった方々の支えがあったからです。そういった方々の思いを胸に、サッカー選手としてだけでなく、人間としても大きく成長できるように日々努力していきます」と抱負を語りました。



写真提供：関大スポーツ編集局

学生生活実態調査の意見・要望への回答を掲出

学生生活実態調査は、大学の学生実態を把握することを目的とし、学生の修学状況やボランティアの活動実態、学生の福利厚生に関する基礎資料を作成し、経年的に比較することで、学生の教養面、生活面をサポートするための施策を迅速に立案・実施するために欠かせないものです。これは、毎年学生の皆さんの協力を得て実施しています。

選択肢によるアンケートの結果は、例年、ホームページ上で公開していますが、このたび、2016年度実施分の自由記述による意見・要望に対する回答を改善点、改善項目を中心にとりまとめ、学生生活支援グループの学生生活のページに掲載しました。

「関大防災 Day2017 ～広がれ! みんなの安全・安心!～」を実施

10月27日に千里山・高槻・高槻ミューズ・堺・北陽キャンパスで、「関大防災 Day」を実施しました。関大防災 Dayは、2010年から開催している関西大学独自の防災啓発行事で、今年で8回目を迎えました。

「地震避難訓練」では、授業中に大地震が発生したと想定し、学生・教職員約1万人が避難・避難誘導・安否確認を実施。その他、地域住民協同による炊出し訓練をはじめ、火災発生時の煙体験、日本赤十字社協力による応急処置体験、吹田市危機管理室の取り組みの紹介など、防災に関連したさまざまなイベントを開催しました。

今後起こりうる災害に備えるため、「防災」や「災害時の安全・安心づくり」への意識を高める機会となりました。



昨年の「地震避難訓練」の様子

関大人 四方山話 ◆「資料を未来に伝える」

よもやまばなし

博物館事務室年史編集室 伊藤信明



年史編集室は、関西大学博物館となっている簡文館(第1学舎)内にあり、関西大学の歩みを物語るさまざまな資料を収集・保存し、学内外からの問い合わせに対応しています。また、関西大学の節目となる年には記念誌の編集を行い、創立130周年を迎えた昨年2016年には、関西大学の歴史を振り返る「130年のあゆみ」と、併設校の児童・生徒に関西大学の歴史について学び理解を深めてもらうための副読本『関西大学をまなぶ』を刊行しました。

関西大学の歩みを示す資料を収集・保存し、それらを未来に伝えることは、どこかの誰かがやってくれることではなく、関西大学が自らで行わなければなりません。クラブやサークルで冊子やパンフレット・チラシなどを作った時には、ぜひ年史編集室にも届けてください。どなたか関西大学に関する資料を持っている人を知っていたら、そんな情報をぜひ年史編集室へ知らせてください。そして、関西大学の歩みを未来に伝えることに、皆さんも率先して参加していただければと願っています。

編集後記

今年も「学園祭」のシーズンがやってきました! キャンパス内は一気に活気を帯び、ワクワク感でいっぱい。お笑いライブを見に行くもよし、模擬店をはしごするもよし、さまざまな企画を楽しむもよし。楽しみ方は人それぞれ。せっかくの機会です。ぜひ一度足を運んでみてください。学生時代の私の心残りは、最終日に開催される人気イベント「後夜祭」に一度も参加できなかったこと。応援団の皆さんと関大生が一体となって大変盛り上がり、「関大生で良かった!」と思うそうです。オススメです。(広報課課長補佐 仁村万喜子)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2017年11月1日(年9回発行)
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

第40回 関西大学統一学園祭 実行委員の皆さん

千里山キャンパス ソシオAV大ホールにて撮影